

トムトム通信



本号の内容

アメニティフォーラム	
研修報告	1
リレートーク	3
特集：職員達の想い.....	4
顧問紹介	8
第4回相談支援はなぜ 必要なのか	
事業所からの目線.....	10
助成・寄贈・研修報告...	11
賛助会員・その他.....	12



アメニティフォーラム報告

皆さん**こんにちは!** 事業部長の露口です。

昨年11月、今回開催したこのフォーラムに又村さん（全国地域生活支援ネットワーク）からお声がかかり、なんとトムトムとして登壇してもらえないかとオファーがきました。思ってもみなかったお話に正直、戸惑いましたが幹部達と相談の結果、私が登壇することになりました。

このセッションでは、和歌山市から中屋さん（NPO法人おもちゃばこ）、北海道北見市から野口さん（NPO法人とむての森）、兵庫県宝塚市から松下さん（〈社福〉宝塚いくせい会）とトムトムの私が登壇し、井上審議役（企業年金連合会）からの助言のもと、地域で元気な4法人の取り組みを紹介しました。

トムトムの「無いものは作る、発足時の精神を初代・理事長の上杉、現・理事長の伊藤、総務部長の加藤による対談方式のビデオで、当時の苦労や、勢いよく走った「生の声」を上映し、私からは継承しているご利用者の成長発達に合わせたニーズと共に歩んだトムトム歴史と、今後の展望をお伝えしました。詳しいトムトムの紹介は、ユーチューブで公開しているので、よろしければ是非そちらをご視聴ください。

<http://youtu.be/Yn1rz3WgYs8>



安倍総理夫人の昭恵さんがトムトムのブースを見学されました。えぼっくハウスで作ったエコポットや、ストラップを持って職員とパチリ。



アメニティフォーラム研修報告

今年も滋賀県の天津プリンスホテルの研修施設にて障がい福祉を中心とした研修会に2泊3日で参加してきました。今回は1,400名の参加者が全国から集まったとのこと。障がい福祉に携わる人達が国の、地域の、現場の問題や課題について、熱い議論が交わされ、多に盛り上がりました。今回、トムトムの職員として福祉の現場で働く思いや、研修で感じてきたことを、報告としてご紹介いたします。

行動障がいに関する講義を聞いて

余暇支援とコミュニケーション支援の選択できる環境、1人1人に合わせられる十分な環境が必要とありました。それに加え固定的でなく流動的に利用者が選択できるような環境がベストな環境作りであるとの事でしたが、実際の支援の中では難しく感じました。それでも、最終的には家族の心理状態と支援の必要性、すると環境が整うとの補足もあり家庭との連携の大切さを改めて実感しました。

抑制的な対応は悪循環につながる事に関しては、現場ですでに実感済みではありましたが、実際の映像を見て、支援者側から見ればそんなつもりがなくても利用者側に立ったらどうだろうかと思えさせられました。立場逆転の発想を意識し支援にあたる事を心がけていきたいです。

10歳未満までにどう対応して行動障がいを抑える事ができるかが1つの鍵とありました。

それを知る為にも事前のアセスメント又、現在を知る為にも定期的なアセスメントの重要性が必要不可欠でストラテジーシートを利用する事により効率的に利用者を理解でき職員の意見交換もでき実践に取り入れられたらと思えました。

えぼっくハウス職員：坂口 幸江



研修内容と実際自分が良いと思える支援している内容に共通している部分が多く、確認ができて良かったです。

また、全国からの多くの事業所との交流会では、情報交換もでき、刺激になった部分やえぼっくでやっている事を話すと「やりがいがあるね」などたくさんの褒め言葉をいただき、さらに「この仕事楽しい！」と共感できたことは自分にとってうれしく、仲間ができ、少し自信がつかしました。

しかし、えぼっくで働き5年が過ぎようとしていますが、まだまだ分からないことが多く、その時はその支援の方法しかないと思うが、後で本当にそれで良かったか？を考えます。この仕事はこれで良いという正解がない為、難しくもあり、やりがいがあります。支援は最初から分かることではない。やりながら失敗して学んでいく。大事なことはやってみる。分からないことは人に聞いてみる。考えながら行動する。利用者さんが大好きな反面、支援の難しさ、楽しさ、やりがいなど、今回この研修でたくさんの研修や全国の福祉に携わる方達とお話しができ、色々な事を学ばせていただきました。

えぼっくハウス職員：朽木 武



今迄、4年間手探りで実施してきた利用者さんと私の接し方が間違っていた方向なのか、それともこのままで良いのか講義を聞き、私なりに結果及び影響（利用者さん対して）が教授たちの見解と差がない事に安堵しました。また、講義の中で重篤化要因として利用者本人の学習結果であるとはっきり言い切る事が出来る、教授の言葉に私は、利用者自身も考えて行動し、その結果迷いがパニックに結びついている事が解りました。

肥後祥治教授は、高度障がいの形成、重篤化過程には、個体の要因を基礎としながら、周囲の行動障がいへの理解の問題から来る適切でない対応と学習過程の無理解からくる不適切な対応と、不適切な学習環境の問題が関与していると考えられると最後を結んでいました。

私は日々、これが一番利用者さんにとってよい環境で、こち良い場所を提供していると信じてやって来ましたが、この講義で何が本当に利用者さんが一番望んでいるのか言葉の少ない利用者さんの態度が示している事が良くわかったようで、解らない事が本心です。又、講義の中で幼少期10歳前にある程度修正する事が良いと言われていたが、私を知る限りでは幼少期の情報がまったく解らないので、もっと御家族様とのつながりをえなければいけないと思いました。

えぼっくハウス職員：近下 輝彦

リレートーク



こんにちは。青木友哉の母です！

平塚養護学校を卒業して現在えぼっくハウスでお世話になっています！23歳です。3つ下に妹がいて父親、母親の4人家族です。

友哉は予定日より2ヶ月も早く生まれてしまったために出生体重1560g。小さな小さな赤ちゃんでした。

早産だったために肺が未熟で自発呼吸が難しく器械に助けられていました。

ずっとNICUに入院していろいろありましたが何とか自発呼吸ができるようになり、1歳10ヶ月でやっと退院することができました！病院の先生や看護師さんからは「大きな奇跡だ！」と言われました。

その後、療育センターにPTやOTの訓練に通い始めました。

体を動かすことが好きでしたし、先生が優しくかったのでとても楽しんで通っていました。

それから20年の月日が流れ、友哉はとても元気になりました！歩いたり話したりすることはうまく出来ませんがまわりの人に助けてもらいながら1日、1日を楽しく過ごしています。

えぼっくでは紙ちぎりが1番お気に入りの作業のようで、うちに帰ってきて紙をちょうだい！と手をたたいて催促してビリビリしています。その間は少しおとなしくなるので私はその時急いで夕飯の支度をしています。

今年のお正月は父親が風邪をひき、中旬は友哉がインフルエンザになったりで初詣に行かれなかったので下旬になって箱根神社に行ってきました。

箱根神社はパワースポットとして有名ですが車椅子利用者にとってとても参拝しやすい神社でした。

境内は駐車場から本殿まで階段を約90段上がるルート。

階段のない坂道をゆっくり上がるルート。そして宝物殿という建物内のエレベーターを利用する方法の3つがありますが、私たちがどこから行こうかとキョロキョロしていたらスタッフの方がエレベーターに案内して下さいました。エレベーターを利用すると全く段差なく本殿まで行き参拝することができました。

前に別の場所へ下調べをしないで出掛けて階段ばかりで途中で諦めて帰ってきたことがありましたが最近はいろいろな所でバリアフリーが進んできて助かっています。

えぼっくハウスでもいつもいろいろな所にお出かけに連れて行って下さり感謝しています。

友哉は元気すぎてまわりのお友達に迷惑をかけてしまうこともあると思いますがこれからもよろしくお願いします！



えぽっくハウス



えぽっくハウスの野口です。えぽっくハウスで働いて早いもので3年が過ぎました。2年前にサービス管理責任者(主任)となり責任の重さを実感しています。

自分に何が出来るのか、何をしなければいけないのか、日々悩んでいるところ です。

えぽっくハウスの御利用者は32名、一人一人個性があり、得意な事、苦手な事、皆ペースが違う中で御利用者の気持ちを尊重し、出来る限り個々のペースに合わせられるように努めています。

日課の外出プログラムでは、健康・体力維持・気分転換・地域交流を目的に個々の体力や体調、好み、天候等にも配慮しながら、1時間以上ウォーキングをする人、ドライブを兼ねて公園やショッピングセンター、図書館での読書やDVD鑑賞をする人と様々ですが、毎日少しでも外出する事で、陽を浴び、外気に触れ、季節を感じる事で気持ちが安定し作業意欲の向上に繋がればと思っています。

今後も焦らず、急がず、慌てずに御利用者の目線で、共に考え悩みながら寄り添って、ゆっくりゆっくり進んでいけたらと思っています。

野口 次郎



南原の生活介護は、作業を午前と午後と分けて行っております。1つの作業をたくさんこなしている利用者さんいれば、ゆっくり時間をかけている利用者さんもいて、色々な利用者さんがいます。作業に関わらず、その利用者さんに合ったペースで何が出来るか？何が楽しいと感じるか？など、日々試行錯誤しながら利用者さん達と向き合っているにぎやかに楽しく過ごしています。利用者さんの人数が多いので、なかなか同じ利用者さんの担当につく機会が少ないのですが、ゆっくり1人1人コミュニケーションを取りながら関わっています。

石井 利江



私がアンヌの拠点担当になって約一年半が過ぎました。福祉の経験は全く無く何も解らない状態からのスタートでした。利用者の皆さんと、どう接していいのか全く解りませんでした。ただ利用者さん一人一人と寄り添い耳を傾け、見守りながら支援する事で気づいた事や疑問に感じた事を何故だろうと考察する日々の繰り返しで今日まで来ました。

最近では、少しずつ気持ちの余裕もでき新しい作業にチャレンジしています。庭で育てた草花や近隣の散歩途中で見つけた花をドライフラワーにする試みです。

今後も、利用者の皆さんと向き合う時に謙虚な姿勢を常に忘れず頑張っていきたいと思います。

守屋 三之



えぼっくハウス

全く違う業種からトムトムに入職し、毎日が緊張の連続で、あっという間に過ぎた4年間だった。私は主に「えぼっくハウス分室」通称：黄色い家で支援を行っている。名前の通り黄色い家は、外壁が黄色に塗装された目を見張る建物でご利用者からも評判は良い。黄色い家のご利用者はとてもデリケートで、それぞれが自分の部屋で作業できるよう配慮がされている。しかし私の思いとしては、せっかく仲間同士の活動なんだから障がい特性に配慮しつつも、少しでも同じ空間で過ごしてほしい、またご利用者の潜在能力が高いのだからそれを引き出せるような作業工夫をしたいと強く考えていった。これは私が福祉の世界が素人だったからこそ、そして実直(笑)な性格だからこそこ次々に挑戦できたのだと振り返る。

…今では食事の時間は一つのテーブルを囲む楽しい空間となり、くつろぎの時間にはリビングのソファで職員と一緒に談笑できるようになった。作業では、かつて機械の音が苦手だったご利用者も、私の手を取り、まだ休み時間なのに作業場まで導くようになった。

私はこの歳になり様々なことを学んで、癒やしをもらい成長したと感じる。「人に褒められること」「人に必要とされること」「人に役立つこと」働くことから得られる、この3つのことをご利用者と共有し実践してきた。いつか私も「ありがとう」「助かったよ」と軽く言える機会があればいいのにな。

近下 輝彦



トムトムで働くようになり、この春で二年になろうとしています。

9月頃から週1回のペースでえぼっく中原も担当することになりました。南原やキャロット工房では利用者さんと作業したり散歩したりする中で仲良く馴染めていたので、中原でもすぐに馴染めるかなあと何の根拠も無い薄っぺらい自信はすぐに崩れ落ちました。

ある利用者さんは私が入る日は作業後すぐに2階に上がってしまったり、もう1人の利用者さんにいたっては部屋に入ろうと扉を開けると、スリッパ等様々な物が飛んできて、すぐに扉を「ピシッ」と閉められてしまう始末です。それでも利用者さんはこちらの様子をチラチラ窺っているのが分かります。

しかし、どうすれば彼らが私に心を開いてくれるだろうかと日々悩んでいます。

そんな中最近の出来事で、利用者さんの部屋の前を私が通った時に彼が扉をタイミング悪く開けてしまった時でした。私は「ごめんね、すぐ降りるよ」と階段を降りていると、後ろでいつものように扉を「ピシッ」と閉める音。その後、部屋の中から「鳥海先生、大っ嫌い！」とのセリフでした。普通なら否定的に感じる言葉ですが、私は嬉しさが込み上げ、恥ずかしながら一人でニヤリと微笑んだのを憶えています。彼はその時初めて私の名前を呼んでくれたのです(先生はちょっと余計ですが)。

彼らと溶け込めるにはまだ時間が掛かりそうですが、私の中では一歩、いや半歩以下ではありますが小さな前進が出来た気がしました。これからも小さな前進を大事にしながら皆さんと歩んでいきたいと考えています。

鳥海 剛

アンヌ城所では、現在3名のご利用者の支援をさせていただいています。

主な活動は体力づくりです。午前中は、車で各地域へ移動し公園内の景色を見ながら散歩を楽しんでいます。午後は、城所の近隣の田んぼ道をのんびりと散歩します。城所の景色はのどかな風景で心も身体も穏やかになり癒やされます。雨の日でもカッパを着て装備を十分に整え散歩をする方がいたり、散歩に行かない方は室内でエコボットの材料づくりをしています。

城所の活動も3年目を迎えるにあたり、ご利用者たちが地域活動に積極的に参加できる場を見つけていきたいという目標を持っています。日々、ご利用者と対話を重ね、難しい面もありますが一緒に歩むことができればと思っています。

朽木 武



ケアホームとむ郎



どこにでもある住宅地の、どこにでもある路地裏に、とむ郎は建っています。目立たない向きに木の看板だけを張りつけて。道に迷わず一回で来た人のほうが少ないのではないのでしょうか。私はとむ郎のある通りだけを上手に避けながら二、三十分ウロウロし、結局スマートフォンを頼ってようやくたどり着きました。

それが二年前の夏のこと。トトムに非常勤として入社し、成人の日中支援のえぼっくハウス、放課後デイのゆうゆうクラブと併せて週に一度、とむ郎の宿直勤務をしていました。

翌春になって職位が常勤になるのに伴い、宿直勤務はなくなり、出入りすることのなくなったとむ郎でしたが、半年が経つ頃、再び巡り合わせが訪れました。

ただ、実際のところ転属はまったく予想もしていない不意打ちでした。いつかまた、ここに戻ってくることもあるだろうとは感じていましたが、それは経験を積んで知識を養って、しっかりと責任を背負っていけるようになってから、少なくとも二、三年は先だと思っていましたから。それでも、環境が変化し、目の前の景色が変わっていく中に、自分自身の成長を促せるきっかけがあれば。そんな思いで、異動しました。

久しぶりに顔を合わせる利用者さんたち。たった半年といえは短いですが、ちゃんと時間は流れていて、懐かしくもありましたが、どうやら皆さんが私のことを憶えてくれたこと、何より以前よりとむ郎での生活になじんでいる様子が見られ、嬉しく感じました。

利用者の皆さんは日中それぞれの通所先に出ているわけで、支援の時間としては180度変わります。作業など何かしらをこなす場所から、何もしないでくつろぐ場所へ。休息・充電のための支援とも言えます。寝食など生活の中心になる場ですから、精神面を含め健康管理には細かく目を配らなければなりません。夜は安心して、あたたかく眠ってもらい、また朝になれば元気に、気持ちよく出発してもらおう。朝夕の食事や、入浴、着替え、支度などなど。そのお手伝いをするのは、簡単なようで一筋縄ではいかないことばかりです。また長い時間をホームで過ごすので物質面でも何かと物入りです。ちょっとした日常品の数々ですが、ひとり暮らしのアラサー男にはこれがやたらと手強いのです。憂いのないように備えておきたいところですが、あれが足りない、こんな援助が必要だというのがその時々で出てきます。それも利用者さんの生活ぶりやその変化をしっかり見つめていないと気づかないことです。それらを逃さずにいつも彼らのことを考えていてくれるスタッフには本当に助けられます。

ホームという言葉のとおり、利用者の皆さんには、ここが“帰る”場所だと感じてほしいと思っています。宿直担当だった頃から、少し角度は変わりましたが、私自身、このとむ郎にいる時間と、利用者さんと過ごす時間が多くなり、ここで暮らしていく、ということの意味をゆっくりとですが感じるようになりました。まだまだ未熟で、試行錯誤は続きますが、これが自分なりの、利用者の皆さんと一緒に歩いていく、ということなのかもしれません。

そして、何かと気を遣って見守ってくださるご家族の方々、利用者さんの生活の充実を支えてくださる通所先や移動支援の方々、ともにとむ郎の看板を背負ってくださっている職員の方々、改めて御礼申し上げます。今後ともこの若輩者にどうぞお付き合いくださいませ。

とむ郎は三度目の春を迎えます。陽だまった洗濯物が風に揺れるのを眺めながら、重ねた季節の数だけ、咲き実っていくつぼみが増えていけばと思う今日このごろです。

松下 雄亮



ケアホームとむ郎の事業を開始してから2年余りの歳月が経ちました。法人としても初めての取り組みであったグループホームに、立ち上げのところから関わることが出来たのは、とても貴重な経験でした。皆様のお力添えのおかげで開所から2年間、大きな事故やトラブルもなく比較的順調にここまで歩いて参りました。

事業開始の頃を振り返ると、利用者の方々はご家族と離れて長期間過ごされる経験が初めての方ばかりで、スタッフもグループホームを経験したことがなく、手さぐり状態での毎日でした。それでも、利用者の方は環境の変化に適応する力を持っており、徐々に慣れていって落ち着いて生活ができるようになり、なんとなくホームの雰囲気や特徴ができていったように思います。

そんな中、ある事柄がきっかけでご本人のなかに変化が芽生えたのでは？と感じることがありました。昨年の大雪の際、交通網が麻痺してしまい、いつもは週末帰宅をされる数名の方が、しばらくホームからほとんど出られない生活を余儀なくされました。その時を境に、それまでは自分の部屋から出てくるのが少なかった利用者の方が、部屋から出てくる回数が増え、スタッフへの関わりも増えてきたのです。大雪がもたらしたけがの功名かもしれませんが、この出来事から、日々の関わりではなかなか変化を促せなかったことも、予期せぬ事がきっかけで、ご本人の心の変化が生まれる事もあるということを感じました。

ホームでは、普段の生活の中でご本人のちょっとした変化を感じ取って、必要な支援を行ってききました。とむ郎の利用者の方は、ご自身の意思を言葉などで表現するのが苦手な方が多いので、利用者の方の状態を把握して、ホームのスタッフ、通所先、ヘルパー事業所などに日々の様子を伝えたり、時には、ご家族とも連携をとりながら関わりを見直したりもしてきました。そういう事を、普段の生活の中で、休みなくごく当たり前のようになされているご家族のご苦労は大変なものだと改めて感じました。

今後も皆様にはケアホームとむ郎をはじめ、トムトムを引続き支援していただき、見守っていただければ幸いです。お待ちしております。

本間 太郎



ぶんぶん

トムトムに入職して今年で4年目、ぶんぶん専属になってからは3年目となります。大学時代、約1年半の期間でしたが、実はぶんぶんのヘルパーとしてアルバイトをしていた過去があります。それから約10年後、縁あってトムトムに入職することになり、今ではそのぶんぶんの責任者という立場を任されていることを考えると運命を感じます。

現在のぶんぶんには、約50名の利用者さんが登録されており、サービス種別は、「居宅介護」「重度訪問介護」「自由契約」「移動支援」となっております。その中から、今回は2つのサービスについて紹介します。

サービスの1つである「重度訪問介護」というのはあまり聞き慣れていない方も多いのではないのでしょうか。その内容は、重度の肢体不自由または重度の知的障がい、精神障がいがあり常に介護を必要とする方に対して、ヘルパーがご自宅へ訪問し、入浴や排せつ、食事の介助、調理、洗濯など生活全般にわたる援助や、外出時における移動中の介護を幅広く行っております。

生活全般にわたる介護サービスを提供することにより、常に介護が必要な重い障がいがある方でも、買い物や病院へ行ったり、時にプールへ出掛けたりとあたり前の日常生活が送れるよう、支援をさせて頂いております。

次に、ぶんぶんで大きな割合を占めている「移動支援」についてですが、内容は一人一人さまざまです。朝の通学支援から夕方の方の帰宅支援、放課後の余暇支援、習い事への通所支援、休日を利用した長時間の余暇支援など、利用者さんやご家族のご希望に合わせた支援を行っております。この支援のメリットは、マンツーマンで対応しているの、個別に対応出来る点です。特に余暇支援のケースでは、利用者さん本人の好きな場所に行ける、好きな乗り物に乗れる、好きな食べ物が食べられる等の楽しみが多いので、その一瞬一瞬に利用者さんが見せる表情や、生き活きた笑顔は何にも代えがたく私のやりがいになっております。

ぶんぶんの支援として気を付けている点は、マンツーマン対応でヘルパーそれぞれの個性を活かせるのは良いことなのですが、逆に自己流になってしまいヘルパーの価値観を利用者さんに押しつけてしまう可能性がある点です。そういうことを防げるよう、ミーティングを通してヘルパー同士、意見交換を行ったり、同行での支援を行ったりしております。

利用者さん、ご家族の方のご希望に応えきれない部分もまだまだ多く、支援の技術も未熟な私ですが、これからも“ぶんぶんの個別支援だからこそ実現できること”を大切に、利用者さんのペースに合わせて有意義な時間を過ごして頂けるように支援をしていきたいと思っております。

石井 学



トムトムにめざしていただきたい「夢」 ～Logical会議を通じて～

トムトムでは、平成25年9月より、会計顧問として株式会社 湘南ビジネスマネジメントの野田さんと後藤さんに御世話になっています。毎月、トムトムに訪問していただきながら月次決算はもちろんのこと、実績から見えてくる課題の追跡や、今後の事業展開の相談など、プロの視点から運営(マネジメント)のお手伝いをして頂いています。今回は、そんなお二人から見たトムトムについてお話していただきました。



代表取締役 野田 周吾さん

皆さん、こんにちは。私たちは、バックオフィス(会計業務等)のお手伝いを通じて、お客様の「マネジメント」をサポート(支援)する法人です。

私たちの「夢」は、私たちが「チーム力」でサポートをさせていただくことで、少しでもお客様に貢献し、すべてのお客様に「あなたたちがいるから安心してマネジメントができる」と言わせていただくことです。

毎月、御法人にお伺いし、月次決算会議でトムトムの「財政状態」や「経営状況」についてご報告をさせていただいております。また、「Logical会議」という集まりを毎月開催し、「想い」を柱としながらも「論理的」に考えることができ、伝えられるようになるために、数名のスタッフの皆さまと会議をさせていただいております。

「Logical(ロジカル)」とは、日本語に訳すと「論理的」という意味です。また、「論理」は「Logic(ロジック)」、「論理的な思考」は「Logical thinking(ロジカルシンキング)」と言います。本当は、日本語で言えばよいのですが、「論理的な思考」というと、とても固い表現となってしまうこともあり、前述した文言がよく使われています。ここで大切なのは、「なぜ論理的でなければならないのか?」ということです。

唯一の答えはないのかもしれませんが、おそらく一人ひとり違う人間が一緒にはたらいていくうえで、共通認識(常識等)や知識(専門知識等)を基礎にして、「筋道」を立ててコミュニケーションを取っていかないと、いろいろな問題を解決していくことができないからだと思います。

いろいろな人が、自分の価値観や考え方のみで、自分勝手に行動をしたら、「減茶苦茶」になってしまうのかもしれませんが。

ほんの短い期間の中で、私が見たり、聞いたりさせていただいた中での印象ですが、トムトムではたらいている皆さまからは「心地よさ」を感じます。このことは、とても大事なことだと思います。なぜならば、この「心地よさ」がなければ、いかに「論理的」に物事を推し進めていこうとしても、うまくいかないはずだからです。(「マネジメント」とは日本語で言うと「うまくいかせること」「何とかすること」と訳すこともできます)

私は、この原稿を書き進めながら、トムトムのホームページを見ています。トップページには、「ひとりひとりがくらしの中できらきら光っているために・・・トムトムは障がい児・者とそのご家族へ小さなお手伝いをさせていただきます」とあります。また、広報誌のページを読み進めていくと、1999年11月7日の朝日新聞に「二十四時間、三百六十五日、障害の種別や預ける理由を問わない」「子どもらがのびのび過ごすのを重視する」ことが特徴と紹介され、2000年8月に発行された「トムトム通信第4号」では1999年度の決算報告書が掲載されていました。よく見ると、「繰越金25,779円」と書いてあります。そして、「トムトム通信第6号」では、「トムトムが危ない!～聞いて!会計の思い～」という記事が掲載されていました。この時期のトムトムは、諸先輩の職員の方々やご家族の支援でぎりぎりの運営をされていたことがひしひしと伝わってきます。

そして、現在・・・ トムトムの「夢」は、これまでの「想い」を次の世代につないでいくことなのだろうと勝手に思っています。これまでの15年の「想い」を次の15年へ、創業当時の「想い」を皆さまが引き継ぎ、次の世代に引き継いでいくことなのだと思います。そのためには、「特定非営利活動法人パーソナルサービスセンタートムトム」という組織を、皆さまが「マネジメント」し続けなくてはなりません。そして、そのためには、はたらく皆さまが、相手(ご利用者・仲間など)を思いやり、徹底して考えることができるか、そして伝えることができるか、ということに尽きるのではないかと思います。

私たちも、トムトムではたらく皆さまを想いながら、少しでも手助けになれるように、精一杯精進していきますので、今後ともよろしく願いいたします。



インタビュー



公益事業部部門長 後藤 朋弘さん

○後藤さんの経歴を教えてください。

最初の就職はシステムエンジニアでした。その後、父の実家の製造業を5、6年手伝い、そこで初めて経理の仕事と出会い、28歳の時に東京の会計事務所に1年程、就職しました。その後、現在の社長である野田に誘われ藤沢市内の会計事務所で一緒に働き始め、現在は、株式会社湘南ビジネスマネジメントで公益事業部部門長という立場におります。

○代表である野田さんとの出会いについて

私が高校1年、代表の野田が高校3年の時にデパートの紳士服売り場のアルバイトで出会いました。その当事から、よく野田は後輩から慕われていましたね。その後も、ちょくちょく飲みに行き、つきあいはずっと続いていました。そんなある日、野田が就職していた会計事務所で職員を募集しているから来いと半ば強引に誘われました。(笑)それから野田と一緒に会計事務所で7、8年働き、会計の事だけではなくもっと幅広く、マネジメントもやってみたいという野田の思いに私も共感し、現在に至ります。あのアルバイトでの出会いからかれこれ24年、..運命の出会いですね。少し寂しいのは、ニックネームで呼ばれなくなったことですかね。(笑)

○後藤さんから見たトムトムの印象は？

トムトムとの出会いは、二年前の秋頃だったと思います。トムトムの職員の方は、お若い方が多く活気があるなと感じました。職員の定着率が特に問題となっている福祉業界で、トムトムは人が揃っているなという印象を受けました。現場の皆さんとは、まだ深く関わっていないので、今後の関わりを楽しみにしていますが、もう少しフォローが必要という組織も多い中、総務の皆さんを見ていると適材適所の役割でしっかり仕事をされているなという印象を受けます。また、まだまだこの先にたくさんの可能性を感じるので今後は楽しみです。

○他業種と福祉業界の違いは？

組織体系と仕組みの違いからですが、NPO、社会福祉法人より、株式会社の方があらゆる事の決断は早いですね。株式会社は、トップの一存で決める事が出来るのに対し、NPO、社会福祉法人は職員、幹部、理事、監事と皆で決断していくんですね。そこが、良い部分でもありますよね。皆で考え、皆の色々な思いがあるからこそマネジメントしていく上でも貢献したいなと思えるし、おもしろさを感じます。

○仕事上で何が一番大変ですか？

色々な会社が色々な悩みを持っている中で、少しでも力になればという思いでやっていますが、それが本当に出来ているのか？どうしたら出来るのか？常に考えています。

○仕事としての夢は？

若い人を育てたいですね。自分の考えを数%でも伝える事が出来、他からも吸収してもらい、人の成長を見てみたいと思います。もちろん、自分もまだまだなので、共に成長していきたいと思います。無限大に可能性があるのが楽しみです。

○いつもニコニコしている後藤さんですがどうしていつも笑顔でいられるんですか？

しまりがいいんですかね、..(笑)でも、動物で笑えるのって人間だけなんですよ。同じ時間を過ごすなら楽しい方がいいですから。





第4回 相談支援はなぜ必要なのか



事業所からの目線

又村けん研修レポート

序・・・

一年間に渡りお届けしてきた連載も、今回が最終回です。

「総合支援法」の定める相談支援給付の経過措置期間も平成27年3月までです。

又村あおいさんに講義をして頂いてから丸一年が経ち、この間、相談支援を取り巻く状況は目まぐるしく変化してきました。前号でもお伝えした通り、サービス等利用計画の作成期限が迫っている中で、ご家族、ご本人が作るセルフプランや相談支援事業所が作るサービス等利用計画の配備が急ピッチで進められており、必然的に私たちがモニタリングやケース会議等で相談支援員の方と連携する場面も段々と増えてきました。最終回では私たち事業所と支援者からの目線でサービス等利用計画がどのように事業所の支援に反映されていくのかを解説していきたいと思えます。

サービス等利用計画と個別支援計画

サービス等利用計画は、障がいのある人（子ども）の生活環境や支援ニーズ、本人の思いや家族の希望等を受け止めた上で、福祉サービスの利用も含めた生活全体の支援をプランニングしたものです。そのサービス等利用計画を基に、事業所では、ご本人・ご家族の目標・将来像を実現する為にどんな支援が出来るか？を考え、個別支援計画を立てていきます。

ある方のサービス等利用計画に「バスの運転手になりたい！」という本人のニーズがあったとします。事業所では「バスの運転手になる」という本人の目標に向けて、どんな支援が出来るかを話し合い、例えば「活動の中に交通標識を勉強する時間を作る」、「外出の時はバスを利用し、実際に運転手の仕事を見学する」というような具体的な支援内容を個別支援計画に落としこんでいきます。

このように障がいのある人（子ども）の「ライフプラン」であるサービス等利用計画を踏まえて、それぞれの事業所において、「具体的に提供する支援」を個別支援計画の中で明確化していくのです。

まとめ

相談支援、サービス等利用計画は、利用者にとっては“命綱”であり、私たち支援者からすれば“支援の指針”です。しかし、タイムリミットを目前にして厳しい状況が続いています。相談支援事業所や支援員の配置が追い付かず、利用者全員に相談支援給付が行き届いていない地域も多くあります。サービス等利用計画の配備がされた地域でも、十分な情報もないまま戸惑いながらセルフプランを選ばれた方もいます。

相談支援が重要であるからこそ、しっかりと全員に行き届くことが必要であり、期限に間に合わせるだけのものではならないはず。ましてや、相談支援が行き届かなかった為にサービスが使えなくなる事など、絶対にあってはならないのです。

又村あおいさんの講義は、非常に解りやすく、本当に実りのある研修でした。編集を担当した私は4回という短い回数の中でどうしたら皆様に解りやすくお伝えする事が出来るか毎回毎回悩みながら連載を続けてきました。今、まさに転換期を迎えている相談支援について、私達が学んだ内容を少しでも届ける事が出来ていたならば幸いです。

一年間、お付き合い下さりありがとうございました。

ゴロゴロクラブ職員：和田エンデルレ 星治郎

助成金・寄贈事業報告 今年度も沢山の助成決定を頂き、ありがとうございます

日本財団

ホンダ/ステップワゴン 3台



ダイハツ/ハイゼット 1台



赤い羽根共同募金

トヨタ/ヴォクシー 1台



日本財団より助成を頂きホンダ/ステップワゴン、ダイハツ/ハイゼットの福祉車両を、また、赤い羽根共同募金より助成を頂きトヨタ/ヴォクシーを購入致しました。ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。今後も、利用者様のより安全で快適な送迎に努めて参ります。

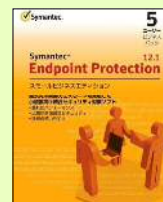
NHK歳末たすけあい募金



NHK歳末たすけあい募金より助成を頂き、グループホームにテラスを設置しました。洗濯物を外に干す事が可能となり、利用者様の健康的でより良い暮らしにつなげる事が出来、とても感謝しております。

TechSoup Japan

テックスープジャパンより、ウイルス対策だけでなく情報漏えい対策、ネットワーク接続制御など包括的なソリューションでエンドポイントを保護するソフトの寄贈頂きました。



平成26年9月8日(月)

「現場に役立つ障がい者福祉論」 講師:桜美林大学健康福祉学群講師 谷内孝行氏

福祉系大学の専門講師である谷内先生をお招きし、「さらに質の高い障がい者支援」について、必要なポイントをご講義いただきました。先生自身の体験談なども交え「障がい」について様々な角度から考える事が出来ました。

平成26年12月1日(月)～12月18日(木)

「安全運転講習」 神奈川県公安委員会指定:株式会社シオン学園三共自動車学校

今年度は初めての取り組みとして、送迎車の運転業務に携わっている職員のうち29名を対象に、教習所での運転適性診断と実地運転検査を行いました。プロの指導の元、参加者ひとりひとりが安全運転についての意識を見つめ直す良い機会となりました。

平成26年11月13日(木)、11月25日(火)

「腰痛予防を兼ねたストレッチ体操」 講師:日本体育大学出身 白木原幸子氏

医療スタッフやリハビリを行う患者さんに指導を行っている白木原先生をお招きし、自宅や職場でも簡単に出来るストレッチを実際に体を動かしながら身につける事ができました。腰痛やその他の怪我などをしっかりと予防し、今後も職員一同健康な体で支援を行えるようにしていきたいと思っております。

平成26年度研修報告 ～職員研修の充実を目指して～

月	内容	講師
5月	市内小学校の支援級及び普通級の現状	小出小学校教諭 滝沢睦美氏
6月	発達障がいの理解と対応	元神奈川県発達障がい支援センター(かながわA)相談員 吉澤宏次氏
9月	障がい児を地域で支える	アグネス園 園長 菅野正裕氏
10月	放課後等デイサービスの活動で大切にしている事	ビーライトしんわ 主幹 飯塚淳氏
11月	支援に関わる人権擁護	法務省人権擁護委員 内田武功氏
12月	地域と養護学校との連携	茅ヶ崎養護学校支援連携グループ 相談専任 木暮佳正氏
1月	リスクマネジメントを学ぶ	職員同士でのグループワーク
3月	医療的ケアがある方への支援の現状と地域での課題	株式会社マザー湘南 代表 塚田桂子氏
3月	精神障がいの基礎的知識とセルフケアの重要性	湘南精神保健福祉士事務所 浅沼尚子氏

入会のおすすめ

賛助会員

トムトムは1997年7月に神奈川県茅ヶ崎市で設立し、現在は茅ヶ崎市、平塚市で事業を行っています。

私たちは、ハンディキャップのある方と、そのご家族のために、さまざまな福祉事業を展開している特定非営利活動(NPO)法人です。

設立当時を振り返ればこの14年間、法律が3度も大きく改正され、劇的な変化の連続でした。トムトムはその激しい時代を必死に歩み続けてきました。

自主事業だけで運営していた当時に比べれば、現在の運営状態は緩和されてきているものの、現在も法人の運営には、多くの皆様の温かい支援が必要です。そこで、マネーサポーター(賛助会員)としてトムトムを支えてくださる方を募集しています。

年会費は個人会員・団体会員ともに一口3000円からとなっております。会員になっていただいた方には、会報誌「トムトム通信」をお送りいたします。どうぞよろしくお願いいたします。



↓トムトムが現在行っている事業↓

事業所名	事業名	拠点
えぼっくハウス	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能型事業所 <input type="checkbox"/> 生活介護事業 <input type="checkbox"/> 就労継続支援B型事業	平塚市
えぼハウ	<input checked="" type="checkbox"/> 日中一時支援事業	平塚市
ぶんぶん	<input checked="" type="checkbox"/> 居宅介護事業 <input checked="" type="checkbox"/> 重度訪問介護事業 <input checked="" type="checkbox"/> 移動支援事業 <input checked="" type="checkbox"/> パーソナルサービス(自費契約)	平塚市
ゆうゆうクラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後等児童デイサービス事業	平塚市
あいあいクラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後等児童デイサービス事業	茅ヶ崎市
ゴロゴロクラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後等児童デイサービス事業 <input checked="" type="checkbox"/> 日中一時支援事業	茅ヶ崎市
ケアホームとむ郎	<input checked="" type="checkbox"/> 共同生活援助事業	茅ヶ崎市

寄附・賛助会員

THANK YOU

11月~1月

白川様/山根様/齋藤様/濱野様/原様
 小川様/小林様/青木様/山崎様/山本様
 若林様/藤田様/小川様/藤田様/岸様
 浅倉様/田中様/岩城様/加藤様/今井様
 永田様/飯田様/石黒様/匿名希望様

編集後記

年が明けると、あっという間に卒業シーズンだと、感じます。寂しい気持ちの方が強いですが...日々変わらず、卒業までゆうゆうクラブに来て下さる利用者さんと共に楽しく過ごして行こうと思います。その寂しさから最近イモリを買いました(笑)

尾迫 裕人

今回は、顧問への取材を初めて試みました。インタビューは、緊張もしましたが、いつもとは違う、第三者から見たトムトムの印象をお届けできたかなと思います。今期3回の発行を終えて感じた事は、取材の大切さでした。ただ、原稿や写真をもらうだけでなく、直接、現場へ行き、お顔を見てお話したり、写真を撮らせて頂く事で、伝えたい事が広がる気がしました。今後も、広報委員会では、トムトムを支えて下さるたくさんの方々の関係者の皆様に感謝しつつ、トムトム通信を発行していきたいと思っています。

深山 裕美



特定非営利活動法人

パーソナルサービスセンタートムトム

住所☆神奈川県平塚市南原2-4-5 マインズビル1階

電話☆0463-37-2012

FAX☆0463-37-2013

Email☆houjin@npo-tomtom.com

URL☆http://www.npo-tomtom.com/